

佐賀の水の歩み

遣隋使が中国へ



607年頃～
沿岸部で干拓

元寇との戦い



1281年以降～
有明海の干拓が
始められる

江戸幕府が
できる



江戸時代
干拓が最も多く、
約11,000ha実施

1976年

国営筑後川下流土地改良事業がスタート

佐賀で
バルーンフェスタ
初開催



1981年～
筑後川下流用水事業
クリークの統廃合

1985年～
筑後大堰建設開始

2012年

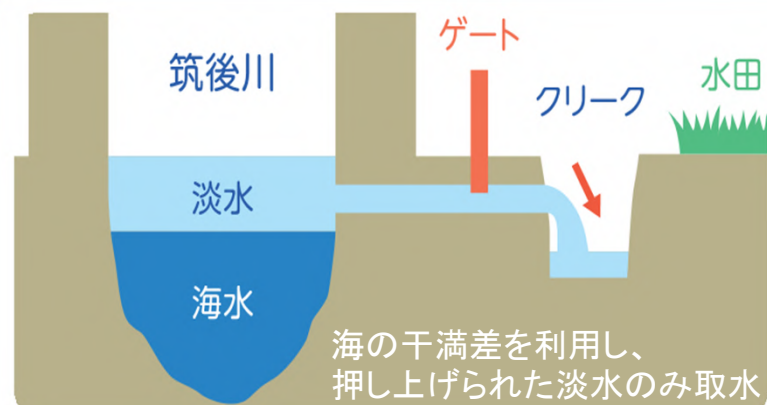
筑後川下流右岸農地防災事業がスタート

2024年現在～
計画173kmに対し、
進捗131km(約76%)

現在も水を守るため
の努力が続く

アオ取水とクリーク

干満が激しく、河川を逆流して海水が入ってしまうことから編み出された、淡水を取水するための地域の知。かつては1万ha以上がアオ取水を行っていたとも。一方で不規則なアオ取水、網の目のように広がったクリークなどが、地域の生産力向上の枷に、、、



クリークの拡大と統合

不規則に広がってしまったクリークを大胆かつ大幅に統廃合することで、
①安定した取水
②災害時に水をためる効果が発揮されるようになりました
安定して水の供給が可能になったことから、かつて編み出されたアオ取水は廃れていきました。

整備前



整備後





安定した取水や洪水時の治水のために、昔はこんな事業をやったんだ

	筑後川下流用水事業(S51～H10)、筑後大堰建設事業(S55～S60)など
目的	・クリークを統廃合し、これまでのアオ取水から筑後川などに水源転換することで、農業用水の安定供給を実現 ・堆積した土砂を取り除き、クリークの貯留機能を回復することで、大雨時の洪水被害を軽減



そして古くなったクリークを整備するために始めたのが、
僕らの筑後川下流右岸農地防災事業だね！

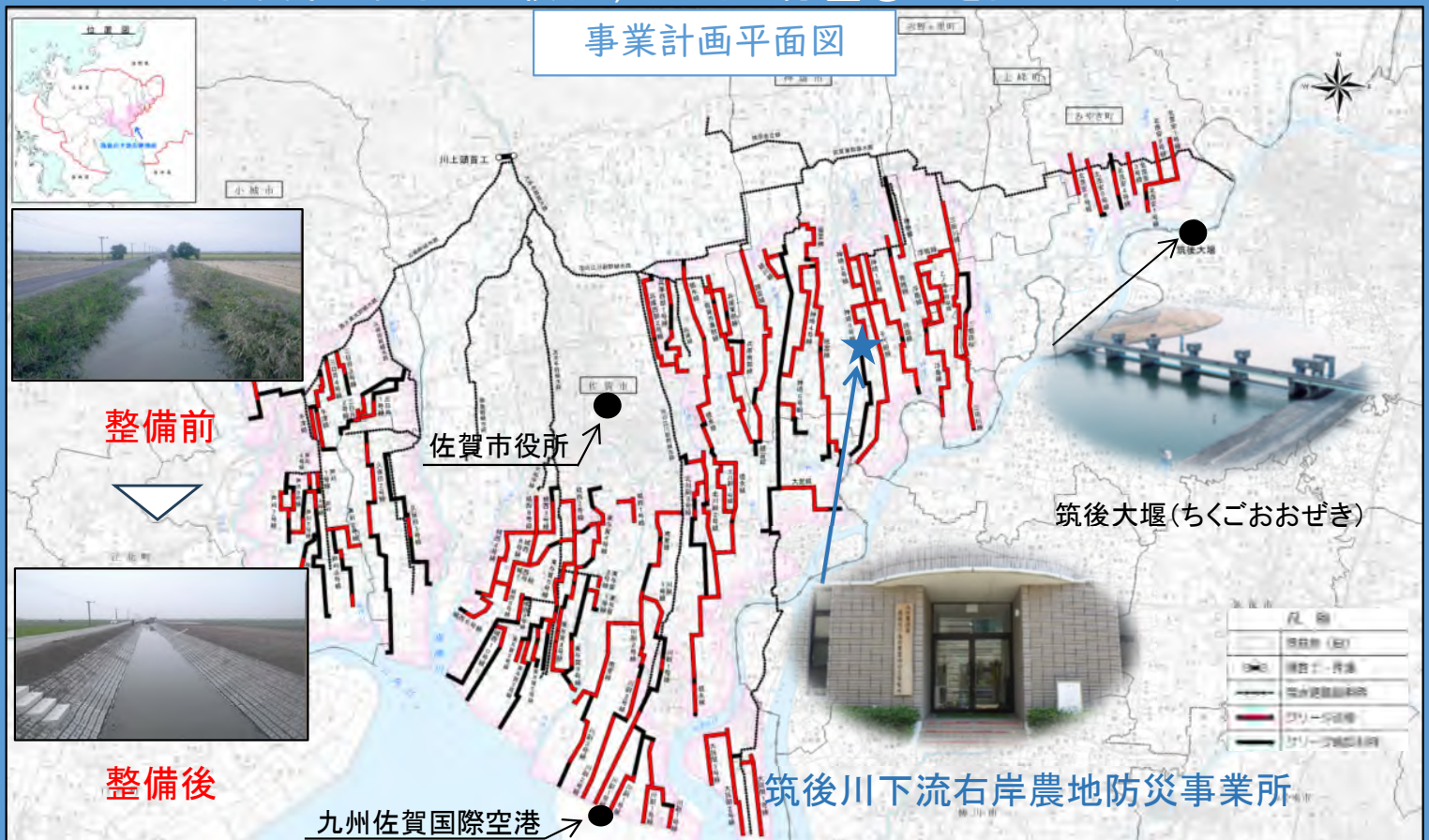
目的:水路(クリーク)の機能を回復させ、洪水による災害を防ぎ農業生産を維持・安定させる！

関係市町:佐賀県佐賀市、小城市、神埼市、吉野ヶ里町、上峰町、みやき町

事業工期:平成24年度～令和9年度(令和6年度時点)

受益面積:10,822ha(水田)

佐賀県の総水田面積(41,800ha)の約 **26%** を占めています！！



大規模ですごく時間がかかっている事業だけど、
その分すごく広い範囲に効果を発揮するんだ！
ちょっとでも僕たちの事業に興味をもって、
応援してくれると嬉しいな！

事業について更に詳しく知りたい方はこちらを読み込もう！→

